

寄稿「写真紀行」

汽水湖（宍道湖・中海）地帯礼賛



三吉 孜（16期）

（シュピーゲル写真家協会会員その他、
JPS（日本写真家協会）公募展入賞、川西市展一席など）

私は中海に面した安来市安来町の生まれです。
定年（平成18年）になった後、写真撮影の為に汽水湖エリアによく行き、故郷に広がるこの
一帯の素晴らしさを改めて実感しました。

○宍道湖

夕景は全国的に有名ですが、シジミ漁に興味を持って、早朝からその漁船を追って湖周を
巡りました。



シジミ漁（春）



シジミ漁（夏）

また、湖岸の風景の中をのどかに走る一畑電車に魅せられ、稲生（いなり）神社の参道を横切って走る姿なども撮ったりしました。



一畑電車

○中海

北岸伝いに境港まで巡り水鳥を追ったり、大根島で大きな廃船を見つけてワクワクしたり、時には夜明け前に出かけ、日本海の漁から帰港する漁船を境水道大橋の上から撮るべく待ち構えたりしました。

また、ひと頃テレビCMで話題になった江島大橋（島根・鳥取の県境に架かる別名“ベタ踏み坂”）を私も望遠レンズで狙ったりしました。（レンズの限界も感じました）



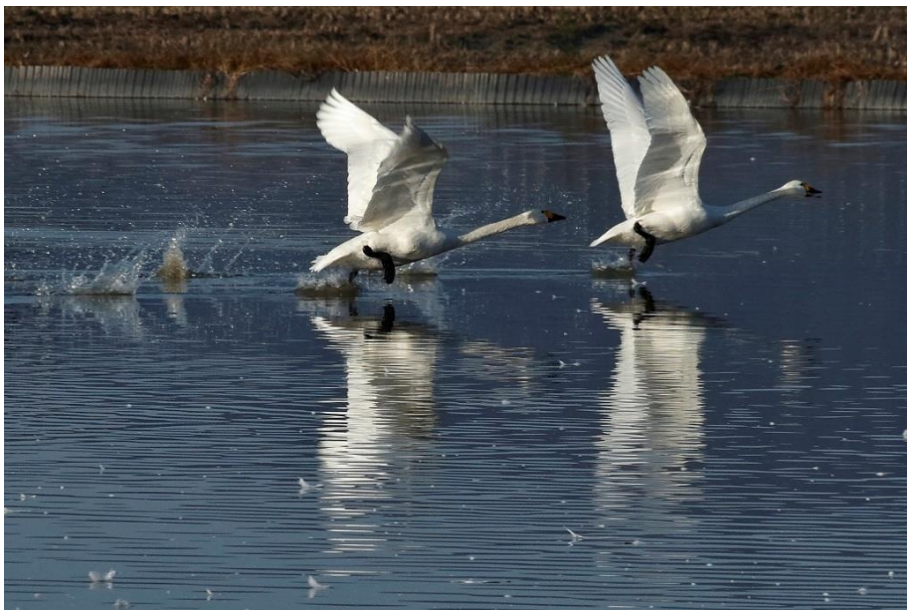
江島大橋（ベタ踏み坂）

○野鳥

人里の白鳥・・・冬場、安来市を流れる伯太川沿いの水を張ってある田圃には約1,000羽のコハクチョウが飛来します。夜は米子水鳥公園などで眠り、早朝に群れを成して渡ってきます。

まだほの暗い夜明けの上空で、突然、白鳥の鳴き声が聞こえ、渡りの大群に気付いて感動することがありました。

その田圃の畦道に行くとすぐ目の前で白鳥を見ることが出来て、頭上を低空で飛び交う白鳥の親子などを撮ることが出来ました。



白鳥（助走）



白鳥（飛翔）

ウミネコ・・・日御碕にある経島（ふみしま）

周辺で多くが群れを作って生息していますが、厳しい冬の荒波の上で、時折、全てのウミネコが一斉に群れ飛ぶのは壮観なシーンでした。



ウミネコ

○山

大山・・・春夏秋冬の風景を撮ろうと思い、冬はスノーシューで雪原を歩いたり、夏には年甲斐もなく山頂まで登りシンドイ思いもしました。

枕木山・・・汽水湖地帯全域の姿をカメラに収めようと無謀にも積雪の日に車で登ったりもしました。



陽春の枕木山頂から望む（中海、大根島、大山）

○祭り

前々回の船神事ホーランエンヤ（平成 21 年）の時は松江大橋近辺から見たのに続き、急いで東出雲町出雲郷（あだかえ）に移動して意宇川の川辺で權伝馬船の感動的な絵巻を堪能しました。



意宇川の權伝馬船

昨年来、コロナ禍で出掛けられない日が増えたので溜まった汽水湖地帯の撮影データを見直しています。
いつの日か汽水湖地帯の写真の中からテーマを絞って写真展を行うのが現在の私の夢になっています。

以上